

「より安全な世界に向けての横浜戦略と行動計画」 (Yokohama Strategy) について

○経緯

- ・ 国連は、1990年代を「国際防災の10年」とすることを決定。
- ・ その中間年となる1994年に横浜市において第1回国連防災世界会議を開催し、国際防災の指針となる「より安全な世界に向けての横浜戦略」を策定。

○横浜戦略の概要

I 基本認識

- ・ 持続可能な経済成長は、災害に強い社会の構築と事前の準備による被害軽減なくしては達成できない。(応急から予防へ)

II 原則 (以下を含め 10 原則)

- ・ リスクアセスメントは、適切な防災対策の構築に不可欠なステップである。
- ・ 災害予防と応急対応準備は、災害救援を減らすために、最も重要である。

III 西暦 2000 年及び未来に向けた戦略 (以下を含め 18 項目)

- ・ 同様の自然の脅威にさらされている国同士の情報交換、共同防災事業、国際地域センターの設立・強化を含んだ、公式又は非公式な形での活動を通じた国際的な地域協力体制の促進。

IV 行動計画

原則及び戦略を踏まえ、コミュニティ及び各国、各リージョン、国際の各レベルで、二国間及び国際協力を通じて実施される具体的な行動を定める。

(コミュニティ及び国レベルの行動) (以下を含め、18 項目)

- ・ 国及びコミュニティレベルの災害アセスメント及び被害削減計画を実施するための政治的なコミットメントを表明する。

(リージョナル及びサブリージョナルなレベルの行動) (以下を含め、12 項目)

各リージョン内の国同士が同様の災害脆弱性を有することに鑑み、各リージョン内の国家間協力を推進する。

- ・ 各国の防災力を強化する観点から、防災情報の収集、人材育成、防災体制構築支援等を実施するリージョナルセンターを設立又は強化する (*).

(国際レベルの行動) (18 項目)

地球規模の相互依存性に鑑み、国際防災の10年を推進する。

* アジア防災センターが1998年に神戸市に設立される。